

令和4年度 第1回 学校運営協議会

浜松市立中瀬小学校

1 日時 令和4年6月3日(金) 10:00~12:00

2 会場 浜松市立中瀬小学校 会議室

3 内容 (1) 校長挨拶 進行(主幹)

(2) 自己紹介

※ 授業参観 10:20~10:50

(3) 浜松市教育委員会教育総務課より

(4) 会長の選出・副会長の指名

(5) 議長の選出

(6) 協議 進行(議長)

①令和4年度学校運営の基本方針について(承認)

②本年度のコミュニティ・スクールの進め方について

(7) 今後の予定と主な内容

第2回 令和4年12月16日(金) 10:00~12:00 学習発表会終了後

支援活動についての振り返り(成果と課題 意見具申)

今後の支援計画について

第3回 令和5年2月17日(金) 10:00~12:00

学校評価の結果について

学校運営協議会の1年間の取組について(自己評価)

次年度の学校経営方針・活動・組織について

第1回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

委員	山下 勝康
委員	山本 忠雄
委員	村上 雅代
委員	舟橋 弘子
委員 CSコーディネーター	田中 弥生
委員	鈴木 英之
委員	鈴木 康弘

オブザーバー

中瀬協働センター	小杉 幸次
----------	-------

学 校

校 長	宮崎 秀樹
教 頭	原 欣嗣
CS担当教職員	平野 将太郎
CSディレクター	富永 幸代

浜松市教育委員会

教育総務課	堀田 洋一
-------	-------

令和4年度

第1回学校運営協議会



「はやく、大きくなあれ！」 2年生生活科より

令和4年6月3日(金)

浜松市立中瀬小学校



学校教育目標

友達を大切にし、広い心で助け合う

経営目標

望ましい生活態度と学習態度、かかわりを通して成長

スローガン

「強くあたたかい学校」のさらなる推進

- ・なかよく(自分も友達も大切にできる力)
- ・かしく(課題を見つけ解決する力)
- ・ぜんりよく(夢に向かって努力する力)

中瀬小コミ・スク (学校運営協議会)

重点目標

家庭との連携

「豊かな心」
自分らしさの発見・
かかわる力の育成

- ・PTA活動を通じた家庭との連携(行事ボランティア等)
- ・学校運営協議会との連携

地域との連携

- ・中瀬地区自治会との連携
- ・地域関係機関(社会福祉課等)との連携
- ・地域福祉施設(浜北特支等)との連携

幼保小中連携教育

- ・中学校・幼稚園・保育園との交流活動の充実
- ・中瀬地区幼保小中合同研修会の推進

キャリア教育の推進
「なかよく・かしく・ぜんりよく」

「確かな学力」

望ましい学習態度の育成

- ◎教科担任制による授業改善
- ◎「話し合い活動」を核とした表現力の育成

「健やかな身体」

望ましい生活態度の育成

- ◎挨拶の励行・外遊びの奨励
- ◎健康な生活・食習慣の確立
- ◎「自分の命は自分で守る」自助意識の育成

「教職員研修の充実」「教育環境の整備」「働き方改革」

浜北北部中校区
めざす子供像

「明るい挨拶のできる子・
心身共にたくましく生きる子」



浜松市未来ビジョン 都市の将来像
市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」

《教育理念》

「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」

《浜松市教育推進大綱》

「市民協働による人づくり」
「子供の学びと育ちを支える環境づくり」
「創造性あふれるまちづくり」

令和4年度

中瀬小学校 教育基本構想

「誰もが安心して精一杯学び合える学校」を目指して
こんな学校、こんな児童、こんな職員を目指して

学校教育目標

「友達を大切にし、
広い心で助け合う」

なかよし遊び



オンライン交流



算数科の授業



又権学習



浜松市立中瀬小学校
校長 宮崎 秀樹

令和4年度 浜松市立中瀬小学校 学校経営方針

1 はじめに

(1) 教育の責務

教育は、児童・生徒一人一人が人格の完成を目指し、個人として自立し、それぞれの個性を伸ばし、国家及び社会の生成者としての資質を育成するとともに、その可能性を開花させることが目的である。義務教育は、今日の生涯学習社会において、こうした基盤を培うことがその責務である。

義務教育を充実させるにあたって、教職員の資質向上や教育環境・条件の整備、教育内容の充実、教育成果の検証・改善は、将来の日本を担う人材を育成するために、総力を挙げて取り組まなければならない課題である。

(2) 教育の現状と課題

令和3年度は、全世界的に「歴史的な出来事」となっているコロナ禍にあって、教育界においても大きな変革の年である。新しい学校生活の様式、オンラインによる学習、行事の再検証・見直し等、パラダイムシフトと呼べる大きな変化の中で学校教育を進めている。

その怒涛の変化の中で、発達支援・問題行動(いじめ等)・不登校への対応に加え、保護者からの過剰な要求等も教育界全体の課題となっている。また、キャリア教育・カリキュラムマネジメント・コミュニティスクール等の推進も求められ、学校だけで解決できる内容を越えた状況となっている。今後も学校だけでなく家庭・地域と協働して、よりよい子供たちを育成することが大きな課題である。

(3) 21世紀に求められる育成すべき資質・能力

「学力は、時代によって変わる」という認識が重要であり、社会状況と学力との関係は、密接なものがある。グローバル社会となり、国内で暮らしていても様々な背景をもった人々と協働していかなければならない時代が来ている。

中央教育審議会教育課程企画特別部会(平成27年8月20日「論点整理」)では、以下のようにまとめられている。

「学校教育に『外の風』、すなわち、変化する社会の動きを取り込み、世の中と結びついた授業等を通じて、子供たちにこれからの人生を前向きに考えさせることが、主体的な学びのカギとなる。」

令和3年度においても教育界は様々な変化が起きているが、これは社会情勢の変化による大きな変革と言える。今後もさらにこの流れは継続していくと思われるが、子供たちの協働性・道徳性等の育成は、学校教育の不易な部分であり、学習・特別活動などの学校教育において、流行や過度な情報に流されることなく、教育の本質を追い求める教職員団として教育に臨みたい。

(4) 第3次浜松市教育計画

第3次浜松市教育計画(後期)で浜松市は、未来ビジョン後期方針として「キャリア教育を核とした教育の推進」を打ち出しており、本校においても、「㊦かよく(自分も友達も大切に作る力)」「㊧しこく(課題を見つけ解決する力)」「㊨んりよく(夢に向かって努力する力)」を育成するため、本年度の教育活動を進めている。

2 学校経営方針

「強くあたたかい学校(組織)」のさらなる推進

本校は、「強く」「あたたかい」学校を目指して取り組んできている。令和4年度も教職員が児童と共に、「強く」「あたたかい」学校をさらに推進し、一丸となって取り組んでいく。

○「強さ」とは…自主的・主体的であり、「知」「徳」「体」の目標に向けて推進力が高く、組織的に課題解決に向けて取り組んでいること。

○「あたたかさ」とは…児童と児童、児童と教職員、教職員と教職員の関係性が高く良好であり、互いが相手を必要とし、前向きなエネルギーに満ちている状態。

教職員においても、「強くあたたかい教職員団」を目指して、互いに協力・協働して教育活動を推進し、楽しくいきいきと活動していく。このことで、教職員それぞれが中瀬小学校の教育を担い、よりよい子供たちを育成していく。

(1) 学校教育目標

「友達を大切にし、広い心で助け合う」

令和3年度までと同様に、学校教育目標を「友達を大切にし、広い心で助け合う」とする。本校は子供像を、「しなやかで、やさしく、たくましい コスモスの花」としている。令和4年度においても、さらに地域に根ざした教育活動を進め、どのような困難なことがあっても「しなやかに」生きていくことのできる、「やさしく」「たくましい」主体的で協働性豊かな子供を育てていくことを目指し、この学校教育目標とする。

(2) 経営目標

◎「望ましい生活態度と学習態度を身に付け、かかわりを通して成長させます。」

学校評価・日頃の取組などから本校の課題として、「あいさつ」「発表・学習への意欲」「教師への相談」「いじめ・不登校への対応」「情報発信」が挙げられた。そこで、令和4年度のスローガンを「『強くあたたかい学校』のさらなる推進」とし、教育活動の中で教師自らが児童との関係性を高め、組織として一人一人の児童を育てていく意識を高める。

「組織として一人一人の児童を育てる」ために、高学年教科担任制を実施し教員が多くの学級で授業することで、担任学級だけでなくどの学級・どの児童に対しても適切に指導できる体制をつくる。このことで、児童にとっても担任ばかりでなく、どの教師にも安心して相談できる体制となる。また、「1教員1教科」となり授業研究を充実させることができ、専門性が高まる中で、よりよい授業・魅力ある授業へと授業改善していくことができる。

◎「『中瀬小コミ・スク(学校運営協議会)』の立ち上げ」

令和4年度より中学校区3校で、コミュニティー・スクールを立ち上げ学校運営協議会を設置する。このことで地域人材を講師として招いたり、学習ボランティアとして来校いただいたりすることが容易になり、地域の方とのかかわりも増え、多くの人間関係の中で児童の育成を進めることができる。

(3) 重点目標

ア 豊かな心「自分らしさの発見やかかわる力をさらに伸ばします。」

本校は、「なかぜっ子運動会・学習発表会等」の学校行事ばかりでなく、「なかぜっ子活動」（集団登校・なかぜっ子清掃・なかぜっ子遊び等）に取り組む子供たちの意識はとても高い。そこで、「きょうどう（協働・共同・協同）」「じりつ（自立・自律）」をキーワードとして、令和4年度においても特別活動・なかぜっ子活動の取組をさらに充実させ、本校の「不易な教育」として継続していく。このことで、「人間関係・社会形成能力（㊦かよく:自分も友達も大切に作る力）」「キャリアプランニング能力（㊦んりょく:夢に向かって努力する力）」をさらに伸ばし、人間性豊かな児童を育成する。

また、本校児童は総合的な学習の時間・生活科において、地域の歴史や文化・環境や福祉・経済等について学習を進めている。令和4年度においても、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）と連携し、地域の有識者を講師に招く等多くの地域の方と接する中で、人間関係能力の育成も図っていく。

イ 確かな学力「子供たちに望ましい学習態度を身に付けさせます。」

令和4年度より浜松市全体で「教科担任制」が実施されるようになる。本校においても同様に実施する。教科の専門性を高めることで子供たちに確かな学力を保障し、「できた」「分かった」と実感できる授業を展開していく。

オンライン授業がスタートし、本校においてもICTを利用して「協働した学習」が進められるようになってきている。今後オンラインでの活動がスタンダードとなっていく社会状況の中で、ICTを的確に利用できるスキルと共に、コミュニケーション能力の育成は必須となる。さらに表現力を磨き、コミュニケーション能力を高めることで、オンライン学習においても自分の考えを適切に伝えることができ、「課題対応能力（㊦しこく:課題を見つけ解決する力）」を育成できる。またコミュニケーション能力の育成は、キャリア教育における「人間関係・社会形成能力（㊦かよく:自分も友達も大切に作る力）」を伸ばすことにもつながると考える。

ウ 健やかな身体「子供たちに望ましい生活態度を身に付けさせます。」

年末の学校評価においても、本校児童の「あいさつ」についての課題が挙げられた。児童会・委員会の活動と合わせて、教職員が子供のよきモデルとなり挨拶を励行していく。また、休み時間や昼休みに運動場へ出てボール投げ・鬼ごっこ・縄跳びなどの活動（外遊び）をする児童が多い。学校行事（運動会・なかぜっ子走）・部活動（水泳・陸上・音楽）等を通して、自分のめあてに向かって挑戦し続ける力を伸ばすとともに、体力の維持増進・健康意識の向上に努める。

また、養護教諭・発達支援コーディネーターによって、こころの健康や健康な生活習慣・食習慣などの健康教育が推進されている。今後もこれらの活動を通して「自己理解・自己管理能力」もさらに育成する。

(4) 教育を支える基盤(発達支援教育の充実・地域との連携・家庭との連携)

児童は頑張りが認められできたことを賞揚されると、自信をもち、やる気や意欲が湧く。この繰り返しを通して、児童は自己肯定感・自己有用感を高める。

これは、浜松の教育の基盤である「発達支援教育の理念」を念頭に置き、全教職員がこの指導観を共有することで、一人一人の児童が安心して学校生活を送ることができる。また教職員がチームとなり、全教育活動を通して児童の心を耕していく体制を構築する。(発達支援教育の充実)

地域自治会の活動や学校活動において、より交流がスムーズに進むよう協力体制をさらに充実させる。また、子供たちをさらに成長させるために、児童一人一人の悩みや保護者の不安や思いに寄り添い、常に連絡を密にする中で教育活動を進めていく。

(5) 中瀬小学校コミュニティ・スクール学校運営協議会(中瀬小コミ・スク)

令和4年度より浜北北部中学校区3校(中瀬小・赤佐小・浜北北部中)で「コミュニティ・スクール」をスタートさせることで、地域・家庭とともに、「風通しのいい」中瀬小学校とし、学校教育をさらに充実させる。コミュニティ・スクールは、地域の有識者・PTA会長・学校職員で学校運営協議会を組織する。また、CSコーディネーターを核として地域の人材を発掘し、本校が推進する地域の資源を活用した体験活動を支援する体制を構築する。(学習支援の呼び掛け、人材リストの作成、コミスク掲示板の作成等)

(6) 浜北北部中学校区幼保小中合同研修会

令和3年度の小中合同研修会は、中瀬小学校が当番校として担当し、夏の合同研修会を実施した。令和3年度より中瀬幼稚園・上島幼稚園・赤佐幼稚園・赤佐西幼稚園にも参加を呼びかけ、発達支援教育について研修することができた。この取り組みを通してネットワークができ、10月に中学校が実施した「服のチカラプロジェクト」において、中学校区の幼・小・中が合同で活動することができた。本年度は、地域内の保育園にも参加を呼び掛け、地域の全教育機関が連携して「地域の子供たち」を育てる意識を高めていく。

(7) 教職員研修の充実

校内研修は、児童のよりよい育成を目指して、教職員の資質向上が目的である。教職員の幅広い知識や経験、教育観の醸成、よりよい授業を目指した授業改善など、教職員としての資質を様々な場面で向上させていく義務がある。令和4年度は校内研修のテーマを「伝え合いたいという思いを育てる対話的な授業づくり」として、教職員のさらなる資質向上を目指し推進していく。また、「教科部会」を設置し、全教員が必ず1教科部会に所属して授業改善を進める。

学級会活動・委員会活動・縦割り活動等においても「話し合い活動」を充実させ、「きょうどう(協働・共同・協同)する」「じりつ(自立・自律)する」意識をさらに高めていく。そのため校内研修ばかりでなく、研究発表会、他校

との交流研修等の校外の研修にも積極的に参加し、よりよい教育観・指導観・指導方法を身に付ける。

3 教職員全員に意識してほしいこと

- 学校は組織で動く 全員で全児童に対応してほしい
 - ・通常ではないことを発見したら「即報告」 緊急対応は時間との勝負
 - ・学校経営上のすべては、教頭の決済を通す（組織的な対応を）
- 子供に信頼されるために、授業を大切にしてほしい
- 教師は俳優であり演出家である
 - ・いい演出家となり、子供を盛り上げてほしい
 - ・俳優として感動させるために、深く教材研究をしてほしい
 - ・教師の一言が、子供を生かす、反抗させると心してほしい
 - ・教師の言葉は教育環境 場に応じた言葉で表現してほしい
- 育ちが遅い子ほど大切にしてほしい
- 家庭の不幸を背負い、身を細くしている子ほど温かくしてほしい
- 迷路の入り口にとどまっている子ほど手をかけてほしい

浜松市立中瀬小学校コミュニティ・スクールについて

1 ねらい

- 学校教育目標「友達を大切にし、広い心で助け合う」の具現に向けて、学校、家庭、地域が一体となって学校運営に取り組む。
- 学校運営協議会での協議をとおして、目指す子供の姿や育てたい力を共有し、学校、家庭、地域が取り組むことを考える。

2 コミュニティ・スクール実施と計画

(1) 令和4年度

日 時	取 り 組 み
4～5月	学校運営に関する課題と学校（子供や教職員）が必要とする支援の洗い出し
6月 3日 (金)	第1回学校運営協議会 ・学校運営の基本方針の説明 ⇒ 協議、目指す学校の姿や育てたい力の共有 ⇒ 承認 ・学校運営協議会組織の確認 ・中瀬小コミュニティ・スクール活動計画
12月16日 (金)	第2回学校運営協議会 ・支援活動についての振り返り（成果・課題） ・今後の支援計画について （学習発表会参観）
2月17日 (金)	第3回学校運営協議会 ・学校評価報告 ⇒ 協議（学校関係者評価） ・コミュニティ・スクール活動報告 ⇒ 協議（学校運営協議会の自己評価） ・課題の洗い出しと次年度に向けての改善策の熟議 （活動・組織等）

(2) 学校支援

- 学習支援 各教科、生活科、総合的な学習の時間、書写（書き初め）
- 校外学習・体験学習支援
 - 1年生 むかしの遊び（12～1月）
 - 2年生 野菜づくり（4～7月）、町たんけん（10～11月）
 - 3年生 凧作り（1月）
 - 4年生 福祉教室（5～6月）
 - 5年生
 - 6年生 職場見学（6～7月）

- 安全管理支援 街頭指導 引率補助
- 学校行事支援
 - 10月 運動会（役員、準備、片付け）
 - 12月 学習発表会（準備、片付け）
 - 1・2月 持久走記録会（監察）
- 環境整備支援 校内清掃 花壇整備 樹木剪定等
- 放課後活動支援 水泳部活（6～7月）、陸上部活（9～10月）

<学習ボランティア要請の流れ>

